

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2009年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ
所在地	鹿児島市 川上町1854-1 (電話) 099-243-7735
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市 真砂町54-15
訪問調査日	平成21年10月28日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 12 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000/45,000 円	その他の経費(月額)	12,000/18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	10 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.2 歳	最低 61 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人博香会 久保クリニック、小田原歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の静かな環境に建つホームである。ゆったりとした庭では散歩が楽しめ、広いベランダに椅子が置かれ、屋外でも過ごしやすくなっている。建物の中は明るく、思い思いの場所で利用者同士話をしたり、テレビを見てつろぐ光景が目に入る。全ての職員が利用者の「できること、できないこと」「わかること、わからないこと」などを記録してみることで、利用者が求める支援を探し、日々のケアに活かしている。また、しばしばホームを訪れ、気軽に健康状態を診てもらえる協力医の存在も大きい。さらに、運営推進会議の議事録や自己評価の記載が丁寧で今後の事業所運営への活用が期待される。朗らかに歌い、職員の肩をもむ利用者の姿に、安心して好きな時間を過ごしながら何気ない日常を送るというグループホームの大切な一面を感じた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型サービスとしての理念」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」などの項目について、ケアのモットーに「地域とのふれあい」を盛り込み、重度化した場合や終末期の方針を具体化するなど、全職員で話し合い課題の解決に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各々の職員が全ての項目について考え、その後話し合っ結果をまとめた。その作業は外部評価の意義を確認し、事業所の目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加がある。運営状況の説明、外部評価結果や取り組み状況の報告が行われるほか地域や家族の要望を把握したり、住民の立場で市へ提案を行うなど有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情相談窓口を掲示したり、意見箱を設置したりしている。入居時の説明書類などにも苦情相談窓口を明記するとともに、面会時は声をかけ、意見や要望を遠慮なく表出してもらえるように努力している。また、出された要望は申し送りノートに記載し、朝礼で職員間の共有を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の方へのあいさつや声かけ、奉仕活動への参加、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、隣接した施設のバザーを訪問したり、保育園児との交流を続けたり、小・中学校や高校生ボランティアを受け入れるなど施設や学校との交流にも努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の結果を受け、地域密着型サービスとしての役割について話し合い、ケアのモットーとして「家族、地域とのふれあいを大切にしたい」との内容を盛り込んだ事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々の業務の中で折に触れ理念を確認し介護に取り組んでいる。また、作成された理念とモットーは玄関、事務所などに掲示し職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の方へのあいさつや声かけ、奉仕活動への参加、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、隣接した施設のバザーを訪問したり、保育園児との交流を続けたり、小・中学校や高校生ボランティアを受け入れるなど施設や学校と交流することにも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を職員とともに話し合い、「地域密着型サービスとしての理念」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」などについて、課題の解決に取り組んだ。今回の自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめた。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加がある。運営状況の説明、外部評価の結果や取り組み状況についての説明が行われ、地域や家族からの要望や意見が出され、意義のある会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口や関係窓口に立ち寄り、情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議で、公民館施設利用時の不具合など、利用者側からの提案も行っている。また、毎年介護相談員を受け入れ、利用者や職員が外部に声を表せる機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームだよりと、一人ひとりの様子を書いた手紙を郵送するとともに、面会や電話など機会をとらえて状況を報告している。金銭管理については面会時に説明し、確認の押印をもらうか、遠方の家族には3カ月ごとに郵送し報告している。新しい職員は面会時に紹介し、異動について説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明記するとともに、意見箱を設置したり、面会時は意見や要望を遠慮なく表出してもらえるように声をかけている。また、出された要望は申し送りノートに記載し、朝礼で職員全員の共有を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は職員の異動を必要最小限にとどめるように努力している。また、やむを得ず異動となるときには利用者に紹介をし、引き継ぎに余裕を持って対応するなど利用者へのダメージが少なくなるように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回は定期的に、また、必要を認めるときには随時に勉強会を開き、認知症やケアについて学びサービスの質の向上に努めている。その他に行政やグループホーム協議会の研修なども揭示し、外部研修の費用を事業所が負担するなど職員の資質の向上に努めている。しかし、経験や習熟度に応じた研修計画の作成は今後の課題である。	○	立場や経験などに応じて目標を持ち、段階的に力をつけていけるような研修計画などを明文化することが望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修機会を確保するためにも、運営者や職員と十分に話し合いながら中期的な観点での計画や年間計画の中で位置付けていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の研修会に参加し意見の交換をしたり、他のグループホームと相互に勉強会を開いたり、地域のグループホームとの交流を図り構築されたネットワークを利用しサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にできるだけ本人や家族にホームを見学してもらい、食事を一緒にとってもらったり、場合によっては体験宿泊を行い、不安の解消や早期からの関係作り配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶を飲んだり、料理の下ごしらえをしたり、共に過ごす時間の中で、暮らしの知恵を教えられたり、ねぎらいの言葉を掛けてもらいながら支えあう関係を築いている。体を動かすレクリエーションや音楽活動、創作活動も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多々設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前から本人や家族、その他関係者から利用者がどのように暮らしたいかを聞いている。入居後は日々のかかわりの中で気づきを大切にしながら本人の意向をくみとり、ケア会議などで職員間の共有を図っている。センター方式のシートを介護支援専門員のみでなく職員も記入することで提言も増え、より利用者の意向に沿った計画作成になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を把握し、主治医の助言を取り入れ、介護支援専門員を中心に職員と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、本人・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議で介護計画を全職員で検討し、介護計画の実施状況や見直しの必要性などについて記録している。状態の変化が生じた場合はそのつどアセスメントやカンファレンスを行い、計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外出・外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊も可能である。また、学生のボランティア受け入れも行い事業所として地域へ貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に協力医療機関の説明を行うが、主治医の選択においては利用者及び家族の希望を大事にしている。受診の際に情報交換を行い、内容はケア記録や申し送りノートに記入し情報の共有を図っている。また、協力医が時折ホームを自主的に訪問するなど関係作りができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応については協力医や家族などと話し合い決めている。現在は終末期の対応は難しいと考えている。当ホームの重度化や終末期に向けた方針の明文化や職員間での共有は今後の課題である。	○	重度者や終末期の人を対象にしていない場合でも、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、また、日常の健康管理や急変時に対応できるよう話し合いと方針の明文化や共有が求められる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は容易に目に触れないように事務室に保管し、利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけ、気配りのある声かけをしている。しかし、個人情報保護の方針について明文化した文書の作成や研修機会の確保は今後の課題である。	○	対人サービスに携わる者として、個人情報には注意を払う責務がある。個人情報の保護方針を明文化したり、研修機会を確保し、全職員が情報の取り扱いについての注意を徹底できるような取り組みが求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。訪問時もゆったりとしながらも朗らかに会話を交わす利用者の姿が見受けられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を収穫したり、食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらったりしながら、食への期待や和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりと入浴してもらうために入浴日を分けているが、希望や利用者の状態で随時入浴は可能である。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し、部分浴やシャワーを利用しながら気持ちよく代謝を促進させたり清潔を保つようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事を共にしたり趣味を楽しむことでそれぞれの役割を見出し参加した喜びを感じている。散歩や短歌づくり、習字、パズル、料理、菓子作りなど個人に合わせた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じるドライブや天気の良い日の散歩など日常的に屋外に出るように支援している。また、外出できないときでも外気浴を行い、体の新陳代謝や生活のリズムの調節、気分転換に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関や居室から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、年2回の訓練を行っており、地域の協力もお願いしている。また、昨年の外部評価の助言により、米、インスタント食品、飲料水、缶詰など非常時の食品等も備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個人別に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握されている。提供した食事を写真で記録し、栄養のバランスや総カロリーについても検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いウッドデッキにはベンチが用意され日光浴が楽しめる。庭も広く自由に散歩できる。プランターに花が植えられ、室内にも花が飾られ季節が感じられる。食堂は広く明るく、テーブルやソファで思い思いにくつろぐことができ、台所から料理の音やにおいが感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台が設置され、片方のユニットではトイレも各居室に設けられている。使い慣れた家具や思い出の写真をはじめ、テレビや趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		